

学校教育目標	
<p>「平沼に生き、平沼から輝く子」 ○目標をもち、主体的に解決していこうと学び続け、自分を高めようとする子どもを育てます。(知) ○自分や相手を大切にしながら豊かに人とかわかり、しなやかにたくましく自立していく子どもを育てます。(徳) ○望ましい生活習慣や心身の健康を心がけ、生命を大切にすることを育てます。(体) ○まこと人を愛し、自分にできることを他者と協働して実践する子どもを育てます。(公) ○コミュニケーションを通して多様性を尊重し、持続可能な社会を実現しようとする子どもを育てます。(関)</p>	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
問題解決力 コミュニケーション力	具体化した資質・能力
	<input type="checkbox"/> 相手のことを考えて話したり聴いたりする力。 <input type="checkbox"/> 主体的に人やものと関わり合い学び続ける力。 <input type="checkbox"/> 根拠をもとに考え、表現する力。 <input type="checkbox"/> 自らの学びを振り返り調整する力。

中期取組目標	
<p>「一人ひとりを大切に みんなのことを大切にする学校創り～期待して登校し、熱中して学び、満足して帰る子どもたち」 ◎学級経営を基盤とした、だれもが安心して豊かな学校生活の実現 ・人権教育、児童指導、特別支援教育の充実を図り、自己肯定感を高め、豊かに学校生活を送れるようにします。 ・基本的な生活習慣の定着や、食育の推進を通して、自らの生き方を考え、高められるようにします。 ◎一人ひとりみんなのことを大切にする学び～「個別最適 協働的な学び」の実現 ・個に応じた学びの充実を図り、みんなで学ぶことの楽しさを味わえるような授業づくりを推進します。 ・効果的なICT環境の活用や、地域との連携を通して、学びの深まりと広がりを推進します。</p>	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①「コミュニケーション力」「問題解決力」の育成を目指した授業づくりを教職員全体で取り組むことで、学校全体で授業力の向上を図ります。②ICT環境の活用を通して、個の実態に応じた指導方法の工夫改善や、地域連携を通して人とのかわかりを大切に授業づくりに取り組みます。
担当	授業学級づくり

学力向上に関わる本校の状況	
<p>□横浜市学力・学習状況調査の結果は、概ね全学年平均を上回っている。 □特に、「知識・理解」の観点で高い通過率が見られる。 ■国語「書く」「読む」の観点の通過率が低い。自分の考えをわかりやすく整理したり、適切に読み取ったりする力を育てていく必要がある。 □学習意欲調査では、学習への取り組みについて前向きな子どもが多い。 ■「学習が嫌い」という回答や、「生活に役立たない」という回答も見られた。一人ひとりが主体的に学びに向かう姿勢を大切にすることが必要である。 □生活状況調査では、概ね安定、充実していることがうかがえる。 ■「地域とのかわかり」をより主体的に取組めるような意識を高める工夫が必要である。 ■「朝食を必ずとる」の項目では、市平均より低い結果になっている。食育を通して、自らの生き方を考え、生活の工夫改善ができるような力を育てていきたい。</p>	

今年度の目標	
<input type="checkbox"/> 相手のことを考えて話したり聴いたりする力の育成。 <input type="checkbox"/> 根拠をもとに考え、表現する力の育成。	

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<input type="checkbox"/> 様々な相手との対話を通して、子ども一人ひとりが考える場を授業に位置付けます。 <input type="checkbox"/> 相手のことを考えて、丁寧に聴く場面を授業に位置付けます。 <input type="checkbox"/> 相手の思いや考えを尊重し、自分の考えを離す場面を授業に位置付けます。 <input type="checkbox"/> 本や資料、人との関わり等で調べたことなどを根拠に考える場面を授業に位置付けます。 <input type="checkbox"/> 高学年一部教科担任制を導入し、子どもたちの学習意欲を高められるような授業づくりに取り組みます。
下半期	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①「豊かな心の育成推進プラン」に基づき、確かな人権感覚・意識の育成に取り組みます。②特別の教科道徳の時間の充実や、様々な教育活動を通して、自分や他人を尊重する心情や態度の育成、規範意識の向上を図ります。③様々な交流活動を通して、人との関わり合いを大切に授業づくりに取り組みます。
担当	道徳部

豊かな心に関わる本校の状況	
<p>□子どもたちは、素直で人懐っこい雰囲気がある。 □地域からの協力も多く得られ、子どもたちの学びを見まもり支えていただいている。 ■あいさつがあまり得意ではなく、あいさつ運動などを通して啓発を継続している。 □様々な教育活動を通して、主体的に取り組む場面を多く設定し、自分に自信をもって力を発揮できるように取り組み、自己肯定感を高めていこうとしている。</p>	

今年度の目標	
<input type="checkbox"/> 相手のことを考えて話したり聴いたりする力の育成。 <input type="checkbox"/> 主体的に人やものと関わり合い学び続ける力の育成。	

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<input type="checkbox"/> 学校生活全体を通して、かわりのある人への感謝の気持ちを育てるため、「人」との出会いを大切に学習を位置付けます。 <input type="checkbox"/> 学級づくりで係活動や当番活動、集会活動を充実させ、自分たちで計画、運営し、みんなの楽しませる活動を経験できるような取り組みを位置付けます。 <input type="checkbox"/> 「特別の教科 道徳」の充実を図り、子どもたちの心情を養い、態度を育成します。 <input type="checkbox"/> 人権研修会、特別支援教育、国際理解教育などの推進を図り、個に応じた指導、支援の在り方を都度検討します。
下半期	

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①狭小な校庭の有効活用や、コロナ禍での体育科経営を模索し、体力の維持・向上を図る。②学校保健委員会等を通して、健康な体について関心をもつことができるようにする。③食に関する全体計画を通して、特別活動を中心に全学年で食育を実施し、主体的な食への関心を図るため食育の日常化を推進する。
担当	体育部・食育部

健やかな体に関わる本校の状況	
<p>□体育科学習では、自分のめあてに向かって積極的に学習に取り組む子が多い。 □お互いの動きをみあつたり、ipadを活用して自分の動きを確認したりして、学びを楽しんだり深めたりする様子が見られる。 □日常的に運動に慣れ親しんでいる子と、ほとんど運動していない子での体力差が大きい。 □基本的な「走・投・跳」の動きや巧緻性に課題が見られる子がいる。 □コロナ禍で自らの健康に意識をもっている子が多い。 □偏食や少食の子が目立ち、バランスの良い食生活の定着が必要である。</p>	

今年度の目標	
<input type="checkbox"/> 主体的に人やものと関わり合い学び続ける力の育成。 <input type="checkbox"/> 自らの学びを振り返り調整する力の育成。	

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<input type="checkbox"/> 学校保健委員会では、年間を通して計画的、継続的に全校で課題に取り組み、自らの健康な生活について考える場面を設定する。 <input type="checkbox"/> 食育の授業を通して、自らの健康な生活のために必要な食事について主体的に考え、実践するような学習を設定する。 <input type="checkbox"/> 食育の日常化を通して、日々主体的に自分の食事を見つめ考える機会を設定する。 <input type="checkbox"/> 1校一実践として、体力向上を図る短縄チャレンジや、オリンピック・パラリンピック種目「ポッチャ」体験を通して、体力の向上や運動への関心を高められるような活動を設定する。
下半期	